

令和元年 11 月 27 日  
川崎市上下水道局

## 令和元年台風第 19 号による排水樋管周辺地域 における浸水被害についての住民説明会に関する議事録

1 日 時 令和元年 11 月 21 日（木）19：00～21：00

2 場 所 久地小学校体育館（高津区久地 4-2-1）

3 対象地域 宇奈根排水樋管周辺地域

4 出席者

上下水道事業管理者 金子 督

上下水道局総務部長 大畑 達也

上下水道局下水道部長 鈴木 利之

上下水道局下水道部担当部長 松川 一貴

上下水道局下水道部下水道計画課長 室井 弘通

上下水道局下水道部下水道管路課長 小林 康太

上下水道局下水道部管路保全課長 後藤 正寛

上下水道局下水道部施設保全課長 清水 成利

上下水道局中部下水道事務所長 藤井 則明

上下水道局中部下水道事務所管理課長 松原 秀明

5 説明会議事

**上下水道事業管理者：**

川崎市上下水道事業管理者の金子でございます。台風 19 号による浸水被害に関する説明会の開催にあたりまして、一言ごあいさつをさせていただきます。はじめに、このたびの台風 19 号では、多摩川の水位が過去に例を見ないほど上昇いたしまして、多摩川の水が、下水道管を逆流したことにより、排水樋管周辺地域において浸水被害が発生いたしました。結果的にこのような被害が生じましたことにつきまして、まずもって深くお詫びを申しあげますとともに、被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。下水道事業者といたしましては今回の事態を重く受けて止めておりまして、原因をしっかりと検証した上で、今後、同様な事態に遭遇した場合におきましても被害を最小限にできるよう、しっかりと対策を講じてまいりたいと考えております。本日の説明会では、被害の概要、対応状況等につきまして、できるだけ丁寧に分かりやすく説明をさせていただきます。ご質問やご要望をいただく時間につきましても、可能な限りとらせていただきました。

いと考えております。詳細につきましては、担当の課長からご説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

**司会：**

続きまして、説明会の進行等に関し、3点ほどご説明をさせていただきます。はじめに、説明会にご参加されている方、個人が特定できる写真や動画の撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。次に、この説明会の記録を作成するため、録音をさせていただきますのでご了承ください。次に、この会場の周辺には多くの住宅があるため、運用上使用できる時間が9時までとなっておりますのでご協力をお願いします。それでは、配布した資料について、管路保全課長の後藤から説明をさせていただきます。

**管路保全課長：**

お手元にお配りさせていただいています、A3の資料に基づきましてご説明をさせていただきます。まずはじめに、右下にページを記載させていただいております。宇奈根-2と書いてあるページをご覧ください。こちらは、浸水被害が発生した宇奈根排水樋管周辺地域の位置図でございます。右下の凡例にもお示しをしておりますが、赤い丸印の場所に宇奈根排水樋管が設置されております。この宇奈根排水樋管の役割は、緑色の線で囲われた堰排水区に降った雨を集めて、速やかに多摩川へ排水するために設置された施設となっております。この堰排水区は、汚水と雨水を分けて排水する分流式下水道でございます。浸水の原因についてでございますが、浸水箇所には大量の土砂が堆積していた状況を踏まえると、想定を超えて多摩川の水位が上昇したことにより、河川の水が樋管から下水道を通じて、地盤が低い排水樋管周辺箇所で溢れたことによるものと考えております。宇奈根-3ページをご覧ください。宇奈根排水樋管箇所における浸水の概要でございます。左側が位置図になっておりまして、左下の凡例にお示しをしておりますとおり、濃い青線でお示しをしておりますのが宇奈根排水樋管、水色の線が、樋管に接続している下水道の幹線となっております。薄い水色のハッチがかかっているエリアが、上下水道局のパトロールで確認した浸水の範囲となっております。この浸水範囲でございますが、職員がパトロールの時に確認したものでございますので、実際に浸水した範囲と多少の誤差があるかとは思いますが、大変申し訳ございませんが、その点につきましてはご容赦いただきますようお願い申し上げます。また、右側にはパトロールの時に撮影した、現地の写真でございます。位置図に記載のある番号の位置での写真となっております。それぞれの写真には撮影した日時を記載しております。この地域では、想定浸水面積が約22ha、多摩沿線道路と向の丘工業高校との間の赤丸でお示しをしている地点で、およそ95cmの浸水があったことを確認しています。宇奈根-4ページをご覧ください。今回の台風第19号による、宇奈根排水樋管箇所の災害対応について、ご説明いたします。左上の図をご覧ください。赤い丸でお示しをしている宇奈根排水樋管は、緑枠で囲んだ堰排水区の雨水を多摩川へ排水する施設でございま

す。上段右側、樋管ゲート写真にお示ししているのが宇奈根排水樋管でございます。こちら、縦 2.16m、横 1.3m のボックスカルバートが 2 つある構造となっております。この樋管の縦断図を下段に示しております。縦断図に記載の数字は、多摩川の基準面から測定した高さでございます、樋管の底部の高さは 12.021m、宇奈根排水樋管箇所周辺の最低地盤高は 15.954m となっております。樋管に設けているゲートは、上段右側の全景写真のような構造となっております、その位置は、下段に示しております縦断図の破線の部分となっております。通常は、ゲートを上げて、樋管を開けておりますが、このゲートを下げて、樋管の出口をふさぐことで河川から下水道への逆流を防止することが可能です。一方、ゲートを下ろしている間に市街地に雨が降ると、雨水の排水先を失うこととなり、内水氾濫を引き起こしてしまう可能性がございます。そのため、ゲートの操作は慎重に行う必要があり、操作手順に従い、操作をしています。宇奈根-5 ページをご覧ください。次に、この宇奈根排水樋管に設置されているゲートの操作手順などについてご説明いたします。上部の黄色く着色してある箱書き部分、宇奈根排水樋管についてをご覧ください。この操作手順では、多摩川水位が上昇し、浸水被害の恐れがある場合には、宇奈根排水樋管ゲートの閉鎖の判断を行うこととしております。まずはじめに、四角で囲っている 2 点目の箇所に記載しておりますが、操作の前提としていたしまして、降雨がある場合や、大雨警報が発令されている等、降雨の恐れがある場合は、宇奈根排水樋管ゲートを全開にする、としております。これは、ゲートを閉鎖することは、内水氾濫の原因となりうるため、市街地等で降雨がある場合や降雨の恐れがある場合には、ゲートを閉めないこととしております。この箱書きの 1 点目をご覧ください。操作の判断といたしまして、田園調布（上）水位観測所の河川水位 7.6m において、周辺状況を踏まえ、ゲートの開閉を総合的に判断することとしております。中央の左の図、こちらは、台風第 19 号が上陸した、10 月 12 日～13 日にかけて、多摩川の水位と雨量データを時系列で整理したものでございます。青い折れ線でお示しているのが田園調布（上）水位観測所の河川水位の記録でございます。今回の台風第 19 号により、河川水位は 22 時 30 分に 10.81m という、田園調布（上）水位観測所での計画高水位である 10.35m を超える、観測史上最高水位を記録しております。また、青紫の棒グラフ、こちらは、高津消防署久地出張所での 10 分毎の雨量観測データを表示しております。この図の右側には、当日の宇奈根排水樋管における活動記録を記載しております。この活動記録をご覧くださいますと、15 時頃に田園調布（上）水位観測所の河川水位が、避難判断水位である 7.6m に達したことを確認しておりますが、この時点では、降雨が確認されており、また台風第 19 号がまだ上陸しておらず、今後、大雨が降る懸念があり、ゲートを閉鎖することにより、内水氾濫が拡大する可能性などを総合的に判断し、操作手順に基づきゲートを閉めないという判断を行っております。その後、降雨が実測されなくなったことなどを確認いたしましたが、河川水位が下降傾向であったことから、ゲートを閉めないという判断を行っております。以上が、10 月 12 日～13 日にかけての宇奈根排水樋管のゲート操作に関する実態でございます。下段の黄色で着色してある箱書きをご覧ください。今回の浸

水の原因と、今後についてでございます。今回の浸水は、下水道管理者としては内水氾濫を発生させることがないよう、操作手順に従い、ゲート操作の判断を行ってきたところでございますが、我々としても経験したことのないような事象であり、多摩川が観測史上最高の水位を記録したことや、土砂の堆積状況から、樋管を通じて河川の水が溢れたことによるものと考えているところでございます。また、今後につきましては、浸水メカニズム及び樋管ゲート操作に関する検証を進め、同様な事態に遭遇しても、被害を最小化できる方策を検討する、と記載させていただいております。しっかりと検証し、まず効果が早くに発揮できることから取組み、被害の最小化に勤めまいりたいと考えているところでございます。なお、次の宇奈根-6 ページ、こちらには、宇奈根排水樋管周辺地域の地盤高図と浸水範囲等をお示ししております。こちらにつきましては、後ほどご覧くださいますようお願い申し上げます。以上で、ご説明を終わります。

**司会：**

それでは、引き続いて質疑応答に入ります。できるだけ多くの方にご発言の機会を確保いたしたいと思っておりますので、大変恐縮ではございますが、質疑応答はお一人様概ね5分ということでお願いできればと思います。また、本日は座席を縦4列のブロックに分けさせていただいております。ご質問等は、ステージに向かって左の列、こちらの列から順に伺ってまいりますので、よろしく願いいたします。それでは、ご質問等がある方は挙手をお願いいたします。

**質問者1：**

裏のほうに書いてある、今後についてということで、方策を検討するということが書いてあるんですけど、いつ、この方策が実行に移されるのでしょうか。というのはまた来年も同じような規模の台風がきたら、また浸水する危険がある、ということなのでしょうか。お願いします。

**下水道計画課長：**

今後についてなんですが、まず、今回、観測史上最高という水位を記録したということで、我々といたしましても、来年の夏、また同じような台風がくるかもしれない、ということ踏まえてですね、しっかり検討していきたいと思っております。まず、短期的に必要なだと思っていることは、ゲートの開閉についての検証というか、見直しですね。そういったところをしっかりと、どうだったのかというところを踏まえまして、あと対策といたしましては、先ほど説明がありましたように、ゲートを閉めた時には、市内に降雨があるというところでは、そこで中で水が貯まっていつてしまいますので、そういうことをできるだけ軽減できるようにですね、移動式のポンプとかそういうものを検討していきたいと思っております。また来年以降につきましては、もう少し、中長期の目で、この地区をどういうふうに軽減させていくかということについて、しっかり検討していきたいと思っております。

**質問者 2 :**

宇奈根-2の資料にあります、1号雨水幹線と3号雨水幹線が合流しているところが、ぽっかり穴があいてて、現地にですね、蓋がないんですよ。で、そこからじゃんじゃん水が漏れているんですけど、そこを塞いでもらえないですかね。その状況確認されていますよね当然。一番浸水してるのそこなんですよ。

**中部下水道事務所管理課長 :**

ぽっかり穴が開いているというのは、マンホールの蓋がなくなっているとか……。

**質問者 2 :**

いえ、なんていうんですかね、そこだけ用水路みたいに、屋根がないんですよ。蓋がない。もともとドブみたいなものがずっと流れているんですよ。コンクリートの板みたいなのが乗っかっていたり、地中に埋まっていたりするんですけど、この合流地点って蓋がなくなっていて、柵で、金網で囲われていて、ぽっかりあいてるんですよ。中のぞけるんです。そこからダバダバ泥がでるから、うちの周りが泥だらけなんですけど、あそこ、なんで開いているのか、塞いだらどうなんですかね。

**中部下水道事務所管理課長 :**

そうしましたらですね、現場のほう確認させていただきまして、下水道の施設……

**質問者 2 :**

え、知らないんだ……

**中部下水道事務所管理課長 :**

今回、はじめてその状況を私ども、確認しましたので、明日、確認をいたしてですね、対応を考えたいと思います。

**質問者 2 :**

その結果も踏まえて、さっき質問された方もありますけど、次どう検討されて、その検討の結果がどうかっていうことを、確認できる場ってのが、どういうふうに提供されるのかっての知りたいですね。

**中部下水道事務所管理課長 :**

後ほどですね、ご連絡先を教えてくださいまして、おそらく下水道事務所で管理するところでないような施設なので、現場の方を確認させていただいて、ご連絡先を後ほど教えてくださいまして、回答させていただきたいと思います。

**質問者 2 :**

はい、わかりました。よろしく申し上げます。

**市民 2 :**

ちょっといいですか、それに関して。いま課長さんそう言ってるけど、その場所については、この図面上では第3号雨水幹線って書いてあるよね。その合流点ですよ。その合流点を、下水道事務所の管理課長がわからないということは、いかにいい加減なのかって

ことなんだよね。そこから、溢れて、逆流して、みなさんに被害が及んだんだから。他の部署の施設だから、私どもでは、認知していませんという、回答は、ちょっとおかしいんじゃないの。

**中部下水道事務所管理課長：**

申し訳ありません。明日確認をして・・・

**市民２：**

知ってる人はいると思いますよ、現場の人で。

**市民２：**

写真持ってるから、お見せしましょうか。お見せしましょうか。

**中部下水道事務所管理課長：**

すみません。後ほど、よろしくお願いします。

**市民２：**

ここです。見に来ますか。

**市民２：**

その結果も、個人に連絡先を聞いて、対応するのではなくて、議事録に載して欲しいと思います。

**市民２：**

明日なんて言わないで、現場の写真持ってる人がいるんだから、見たらどうですか。明日なんて言っていないで、今見せてくれるって言ってるんだから、見せてもらったら、とりあえず今わかるわけだから。

**市民２：**

スマホの写真なので、ここにいらっしゃる全員の方にお見せするわけにはいかないですけど、知らないって言うのはどうなのかなって。こういう状態です。この向こうは、こっち側が梨畑になっています。で、向こう側はマンションです。ここは、そのマンションや駐車場に入る出入り口になっています。こっちが道路です。ここが、ぽっかりあいている状態です。この先はもう暗渠です、蓋がしてあるんです。コンクリートの。それがずっとつながっていて、道の下は暗渠になっているんです。その先のところも、コンクリートの蓋がしてあるだけなので、正直言うと、そのコンクリートの蓋からも、水は出てきてるんですけど、泥は出てきてないです、砂は出てきてる。ここは、泥が出てきてる。つまり、何もしていない状態なので、おっしゃるとおり多摩川の泥が、全部ここからブワーっとあふれ出したんです。噴水状態ですね。だからここも道がすごかったです。車も全部埋まるくらい。ここをご存じないないのは。そうですね、このちょうど橋の下のところで、ここが道路になっているので、この橋の袂のところで合流しているかたちです。

**市民２：**

すみません、結局、その土管は誰の管理なんですか。そこに埋まってるのは、どこの管理なんですか。

**市民 2 :**

すみません、今の件、いいですか。今の話。今のその開渠の部分の話。多分、それは水路として、道路公園センターの管轄じゃないですか。下水道さんの管轄ですかそれ。

**管路保全課長 :**

今ですね、写真見せていただきました。今は断言ができないのですが、道路公園センターの管理する水路の可能性もございます。

**市民 2 :**

そうだと思うんですよ。その水路の中に入るときには道路公園センターの許可を取らなくてはいけないんで、多分、下水道さんの管轄のエリアではなくて、その水路の部分は道路公園センターの管轄だと思うんですね。その辺は、下水道さんは把握はできてないんじゃないかな。本来だったら、こういう説明会に、道路公園センターの方もお見えになって、結局、今の下水の管きょにつながっている道路の側溝も含めてそうなんですね。だから本来であれば、下水道局さんだけじゃなくて、道路公園センターの方もお見えになって話をされたほうが、今こういう、質問あった問題というのはクリアできると思うんですよ。たぶん、管轄がちがうとそれに対するお答えは下水道さんではできないと思うんですね。

**下水道計画課長 :**

この点につきましては、水路、道路公園センターというのがありますので、ただそうはいいながらも、やはり今回そういった事象がおきている、というご意見をいただいていますので、道路公園センターと下水道管理者と連携してですね、そこからあふれ出ているというご意見をお聞きしておりますので、なんらかの対策を考えていきたいと思えます。

**(当日回答できなかった事項に対する回答)**

当日配布した資料の「宇奈根-2」ページにございます、堰 3 号雨水幹線は、多摩区役所道路公園センターが所管する水路でございます。11 月 25 日には打ち合わせを行い、蓋のない地点から泥水が噴出していた状況を多摩区役所道路公園センターと共有いたしました。今後は、多摩区役所道路公園センターと連携し、蓋の設置を含め、浸水被害を最小化できる対策の検討に取り組み、3 月末を目途に対策の方向性をまとめ、公表してまいりたいと考えております。

**質問者 3 :**

今回、水門の操作をマニュアル通りにやったということのご説明があったんですけども、他にも水路はいくつかあるのではないかなど、認識しての質問なんですけれども、他のところの操作というものは、きちんとされていた。今回、うちのところの操作が、ミスがあった、よって浸水が発生した、というようなふうに、私自身は考えるんですけども、そのあたりは、何か操作に違いというものがあったのでしょうか。それとも完全に操作判断ミスということになるのでしょうか。

**中部下水道事務所管理課長：**

今回ですね、5箇所の排水樋管が、多摩川の降水量によって逆流が発生して、浸水の被害が発生しております。中原区の山王排水樋管というところがございまして、そちらは下水道の方式が、合流式、汚水と雨水をひとつの管で流す下水管になっております。そちらにおきましては、ホームページ上でも資料があるんですけども、そちらは、ゲートの操作をですね、夜中の22時52分、下流側にあります丸子ポンプ場というところが、水没するという可能性がありまして、ゲートの操作を段階的に操作しまして、閉鎖したというゲート操作を行っておりますが、その他の宮内排水樋管、二子排水樋管、宇奈根排水樋管、諏訪排水樋管、4つの排水樋管につきましては、その当時、避難判断水位、田園調布（上）の水位観測所が7.6mという水位の時点で、川崎市内に降雨がございまして、台風がこれからやってくるという状況の中で、気象庁の横浜地方気象台の予報からですね、今後50mm、ところによっては80mmの降雨が予測されておりまして、そういった気象予報とか台風の進路、これからやってくるということで、その避難判断水位の7.6mの時点、15時の時点で、ゲートは閉めないという判断を、4つの排水樋管で行っています。

**質問者3：**

では、判断ミスではない、ということなんですね。

**中部下水道事務所管理課長：**

はい、操作手順にしたがって、ゲートの操作を今回行ったと考えておりますが、その結果ですね、このような甚大な浸水被害が発生しているということからですね、さきほど最初にご説明申し上げました、今後ゲート操作の検証を行いまして、今後ゲート操作の手順の見直しに向けて、検証して、対策工事の検討を行ってまいります予定でございます。

**質問者3：**

では、早々にお願いたします。あと、その報告というのを、前の方の質問に対しても、あとで連絡先を教えてくださいと、というような発言がありましたけれども、個人に対しての説明ではなく、全体に対して、被災者全員に対しての説明であるということを心に留めておいてください。

**下水道計画課長：**

先程の、今回の検証の件につきましては、何らかの形で皆様にお知らせできるようにですね、例えばホームページで公開するとか、公表するとか、そういうことを考えていきたいと思っております。

**質問者4：**

ホームページでお知らせするというのは、決定事項を我々にお知らせするだけの話ではないのですか。我々が、納得したいのは、その判断が、再発防止につながるかどうかというのをちゃんと納得したいんですよ。説明を聞いて。なので、我々の希望としては、一方的にホームページに載せるからそれで勝手に読んでくれることではなくて、ちゃんとこ



ういう場を設けて、きちんと、今日皆さんから出る質問事項に関して、即答できないものに関しては、必ず説明会を設けていただきたいと思います。

**下水道計画課長：**

ご意見については、お聞きいたしますが、できること、できないことがございますので、少なくとも、今いただいていたご意見で、個人で、ご回答するということがないように、きちんと市民の皆様にはですね、お知らせして、できる対策をしっかりとですね、皆様にお知らせしていきたいと思っております。

**質問者 4：**

今、私が言ったことって、個人の回答がやめてくれと言っているのじゃなくて、説明会をしてくれということ言いたかったのですが、それが、できること、できないこと、できないってことになっちゃうんですか。今日、できてるのに、なんで次回はできないの。

**下水道計画課長：**

説明会につきましても、検討の方はさせていただきたいと思います。

**市民 4：**

あのね、さっきから、話を聞いていて、やります、やりますってということばかりなんですけど、普通のね、会社で打合せをやったら、議事録は出します。そのために録音録ってるんですよ。大変結構なことです。これ、議事録、全部出してください。で、質問が出たことに対しても、答えを書いて下さい。やりますと言ったことに対しては、いついつまでに何をやる、誰が責任者だということを、明記してください。それが普通、会社だったら当たり前ですよ。ね。そちらに座っている方々は市役所の方だから、そういうことはやってないで済ましているのかもしれませんが、一般企業でしたら、そういうことは許されません。お分かりでしょうか。ですから、全部、議事録に書いて、誰がアクションをとるのか、いつまでにとるかということ、明記したものを公開して下さい。後日、説明会をやるなら、説明会をお願いいたします。以上です。イエスカノーかを答えてください。

**管路保全課長：**

議事録に関しましては、今日ですね、この説明会の議事録を、ホームページで公表させていただきたいと、思っています。対策等はですね、川の水の高さ、あと浸水範囲をしっかりと検証をしないといけない、なので、すぐ、これがいつできるということなのですが、来年の3月を目途に、検証し、報告させていただきたいと、それは私たち思っております。それとですね、短期的にできることをまずやって、少しでも浸水被害減らし、同じような被害をですね、軽減できる対策をまずとりたいと考えております。

**質問者 5：**

ホームページでといっても、ここには、お年寄りの方だけで住んでいるお宅もあると思うので、ホームページを見るに見られない方も、たくさんいらっしゃると思うのですが、ホームページに載せるだけでは、何も解決しないのではないかな、と思っております。

**下水道計画課長：**

ホームページ等をご覧になれない方もいらっしゃると思いますので、その点につきましては、例えば、区役所に同じような分かるものを置くとか、何か工夫をしたいと思っております。

**質問者 6：**

今日、どんな権限をお持ちで、どんな情報をお持ちの方が来ているのか、ぜんぜん分かっていないのですが、この地域に、上下水道以外の水路があるというのであれば、そこを所管している方も同様に説明会をしていただけたという理解でいいのでしょうか。でないと、先程の穴が開いているとかいうところ、そこ以外に可能性としてはありえるので、説明会をすることを求めます。ただそれは、今ここにいらっしゃる方が、その権限はお持ちですか。

**管路保全課長：**

先程お話をさせていただきました、水路のほうは、道路公園センターの管理とは断言ができないのですが、そう思われる。今回の説明会は、下水道の樋管を通じて、下水道施設から逆流したということで、上下水道局主催で、この説明会をさせていただきます。結果、そのつながってる水路が、溢れたということにつきましては、うちのほうでしっかりと管理するところに、お話をしまして、対策を出来るよう要請するなりしていきたいと考えています。

**質問者 6：**

ということは、今ここでやるというのは分からないし、所管が違うところなので、やるも、やらないも、今言えないという理解でいいのですか。

**管路保全課長：**

はい、そうなります。

**質問者 6：**

では、やれる人を出してもらいたいんですけど、その判断ができる方、誰ですか。所管が違う水路がありますよね。それ、最後にマンホールについてるのかも申しないんですけど、そのあたりの所管をしている方から、説明会をしてもらいたいんですけど、それを判断するのは誰ですか。やるのかやらないのについて。それは市長ですか、区長ですか。

**管路保全課長：**

まず、そこですね、管理する事務所、道路公園センターかと思いますが、そういったご意見があったということは、私のほうから伝えするようにしたいと思います。

**質問者 6：**

では、伝えたフィードバックは、どうやっていただけるんですか。

**管路保全課長：**

今回、議事録を作成してホームページにあげますので、その中にですね、経過をですね、載せたいと思います。

**質問者 6 :**

議事録ってどれくらいでできます。普通、一週間、二週間かからないと思うんですけども。会社であれば。

**管路保全課長 :**

実は、今までのものです。作成はしているのですが、かなりの量がありまして、だいたい一週間ぐらいを目処に、アップしたいと考えております。

**質問者 6 :**

それは上下水道局のホームページですか。それとも、区のホームページですか。

**管路保全課長 :**

上下水道局です。

**(当日回答できなかった事項に対する回答)**

今後、宇奈根排水樋管周辺地域を対象とした説明会を開催する際には、関係部署の同席を含めた調整をいたします。

**質問者 7 :**

前の1つ、2つ前の方の質問にも絡んでなんですけど、マニュアルどおりに操作をしたので誤りではないっていうのが、私、実は宮内の住民でして、先日の宮内の小学校のところでも、同じ説明を聞かせていただいているのと、今、皆さんに知っていただきたいんですけども、こういう学習会を今度12月のあたりに用意してます。このチラシは、この場で配ってはいけなとさっき言われたので、後で入口に立ってますので受け取っていただきたいと思いますが、水路、雨水の排水を、まず、閉じてしまったらば、逃げ場がなくなって、内水氾濫を招くという理屈を盛んに繰り返されるんですけども、川の水がもう既に逆流が始まっているのが明らかな状態で、逆流を止めなかったらば、川からどんどん水が流れ込んでくるし、そして、雨水の方の水もどんどん溢れてくるし、ということになれば、被害はもっと拡大するっていうふうに見るのが、これが普通じゃないんでしょうか。多分、小学生くらいの知識があれば、誰でもわかる理屈だと思うんですけども。なのに、雨水の方の氾濫を防ぐためという一点張りで、だから閉めなかったんだと、いうことをずっと、この過去、先週からの説明会で、全部の会場であなた方されてるわけなんですよ。で、その判断は、マニュアルに従っただけだと、ということなんだけど、マニュアルに従った判断であっても、結果としてはこういう被害を、甚大な被害を招いてしまったのだから、間違いでしたということは認めるんですか、認めないんですか。間違っていたでしょ、判断は。マニュアルどおりにやったけど、判断は間違いだったということは、認めるんですかどうなんですか、その1点だけ確認したい。

**中部下水道事務所管理課長 :**

只今のご質問についてですが、15時の段階です。避難判断水位7.6m、今後、大雨が降る予測がありまして、雨の区域も川崎方面に向かってくるという、そういった雨雲の動

きもあって、その時点ではですね、今後、大雨が降ると宇奈根地区の内陸に降った雨によって、浸水被害が拡大するのではないかと。そういう判断をしましてゲートを閉めないことを決定しております。その判断の結果、今回、5箇所の排水樋管で浸水が発生しております。今後ですね、このゲート操作がどうだったのか、ということを検証を進めていきまして、判断基準のほうはどうだったのか、浸水を軽減させるためにはどういう判断基準がよいのか、ということについて今後、検証して、先程から同じ説明をして申し訳ありませんが、こちらの排水樋管ゲートを閉めてしまうとですね、流れる先が無くなってしまいます。そういったゲートを閉めた段階で、雨が降ってくると、その雨がさらに溢れてしまう。そういった、分流式の排水区でございますので、来年の雨季まで、短期的にできることは、スピードをあげてですね、今後対応していきたいと考えております。

**質問者 7 :**

今回の判断は、間違っていたのかどうかということ、じゃあ、口が避けても、間違っていたとは認めないと、そういうことですね。

**中部下水道事務所長 :**

今回の台風 19 号における、宇奈根樋管のゲート操作の判断についてでございますけど、先程、管理課長の松原の方からもご説明したとおりですね、避難判断水位の段階でゲート操作の、開閉の判断をするということになってはございますけど、その段階でですね、まだ大雨警報等が発令されていて、今後、計画雨量を超える大雨が降るという予報もされているなか、下水道を管理している我々といたしましてもですね、内水を排除するための逃げ道を閉鎖してしまうという結果になりますので、その時点でゲートを閉鎖しないという判断をしております。その判断につきましては、現在の段階では、その段階では、適切であったと考えてございます。しかしながらですね、多摩川がですね、これだけ高水位に上昇したということがございますので、これだけ上がったのは我々も経験したの初めてでございます。そういったなかでですね、実際に多摩川の水位と下水道管きよの内水ですね、バランスなどといった、浸水のメカニズムについても、どうだったのかという点と、こういった事態におけるですね、ゲートの操作の判断が、どういう影響を与えたかというような点につきましても、今後しっかり検証してまいりたいと考えてございます。

**質問者 8 :**

今の質問に関連するかどうかと思うんですけども、宇奈根-5 の資料ですけども、12 日 15 時の時点で、総合的に判断をしてゲートを閉鎖しないということ判断されましたけど、その時点で、多摩川が逆流するということは想定されていたかどうかということが1つと、そのあと、活動記録 23 時まで飛ぶんですけども、その間にどんどん水位は上がっているわけですけども、その間に逆流する可能性、ゲート閉鎖の判断をする必要があるのかどうかと検討されたのかという事実の確認です。

**中部下水道事務所長 :**

この15時の時点、避難判断水位 A.P. +7.6m という水位になったところございますけども、その時点での判断と致しましてはですね、実際に、多摩川の水とですね、内水の関係についてはですね、明解にお答えすることは出来ないんですけども。その段階におきましてですね、経験上の話になって、申し訳ないんですが、過去にも、台風の関係で多摩川の水位が上がったことがございます。その時の、こちらの数値を見ますと、A.P. +8.3 とか4ぐらいまで上がった、過去に経験がございますが、その際にもですね、こちらの宇奈根樋管では浸水は起こっていないということで、この段階での判断としましては、まだ浸水は発生しないだろうという判断をしております。それ以降なんですが、徐々にですね、多摩川の水位が上昇傾向にあるということについては、京浜河川事務所のほうでですね、多摩川の水位等のデータも、ほぼリアルタイムで見ることが出来ますので、そういったデータを見ながら、水位の情報については確認してございましたが、先程も説明したんですけども、こちらの宇奈根排水樋管自体ですね、自然吐構造の雨水管になってございまして、一旦ゲートを閉めてしまいますと、完全に雨水の逃げ場がなくなってしまう、という構造になってございますので、こういった中でですね、先程話したとおり、50mm～80mm 程度の降雨が予報されているということもございますので、そういった降雨が長時間続くということになりますと、今度その雨水によります内水浸水がどんどんどんどん進んでいくと、いうこともございますので、そういったことを勘案しますとですね、操作手順に基づいてゲートを閉鎖しないという判断は行ったところでございます。

#### 質問者 9 :

台風当日、12日は、朝から住民のところに町会の役員で手分けをして避難するよという事でとまわってまして、夕方になって、避難指示というふうになりまして、再度、まだ避難されていない住民のところにまわって、避難するよということ呼びかけていました。私たち住んでいる久地第2町会、私は70年以上住んでいるのですが、今まで水が上がったことがありませんでした。でも、今回、初めて水が上がったということで、先程から何回もお話をされてますように、今回の多摩川の増水は、近年にない大增水だったなあという印象を持っています。そこで、冒頭の上下水道管理者のお話、また資料5のところにありますように、今後の対策ということで、浸水メカニズムおよび樋管ゲート操作に関する検証を進め、同様な事態に遭遇しても被害を最小化できる方策を検討する、というようにおっしゃっています。是非、二度と同様な被害が起きないようにやっていただきたいといふように、強く思っているところです。その立場から、ちょっと意見を述べて行きたいと思えます。本来であっては堤防に孔をあけることはあつてはいけないということだと思うのですが、排水樋管を作るということは堤防に孔をあけるという事になります。ですから、ゲートは多摩川の水が上がったときに濁流が地域内に入ってこないようにゲートを閉めるということで、ゲートが作られて、そのゲートもその地域の面積に応じて大きさも設計されているんだと思えます。私、14日の日に諏訪の排水樋管の説明会に参加させて

いただいたのですが、諏訪の排水樋管の高さは、たしか3mくらいあったと思います。今回、こちらの宇奈根ほうは2mぐらいということで、そんなに設計されているんだということが、私は確認できました。そういった意味で、多摩川の増水が予想されたら、やっぱりゲートを閉めるというのが基本だと思うんです。そして、中に降った雨は、雨水についてはポンプで、排水ポンプで多摩川のほうに排水する、ということがセットで行われることは基本ではないかという部分でありますね。そういった点で、質問したいんですが、今、たぶん、あの宇奈根の排水樋管のところに、排水のポンプの設備があるかと思いますが、あるんですか、ないんでしょうか。ということと、あればその場所を教えてくださいということです。それからその排水ポンプ、設置されているんだしたら、その排水能力は、どのくらいなのかということをお願いしたいというふうに思います。それからそういった点では、設置されているゲート、排水樋管、それから水路ですね、多摩川へ流れている水路、それからゲート、それから排水のポンプが設置されているなら、それらの日常的な点検保守の作業が当然行われてなければならないというふうに思います。そういった点で、宇奈根の排水樋管の水路のゲート及び排水ポンプの点検作業はどのくらいの頻度で行われているのでしょうか。また、直近の点検保守作業はいつ行われたのでしょうか。お聞きしたいと思います。また、再三、大勢の方から要望が出されていますけれど、ぜひ説明会という形で、みなさん、市のほうで検討した内容について十分に周知徹底、お願いしたいと思います。以上です。

**中部下水道事務所管理課長：**

1つ目の質問なんですけれども、宇奈根排水樋管においては、ポンプはございません。

**質問者 9：**

はい。なんでなんですか。

**中部下水道事務所管理課長：**

自然吐きの排水樋管ということで当時設置した、昭和46年の頃からですね・・・

**質問者 9：**

そしたら、ゲートを閉めないのが前提なんですね。

**中部下水道事務所管理課長：**

先ほどもご説明しました、降雨または降雨の恐れがある場合はゲート閉めないという手順をですね、運用しております・・・

**質問者 9：**

だって、雨は、この堰排水樋管の地域だけじゃないわけじゃないじゃないですか、降ってるのは。ほかでも降ってて、データにある多摩川の水は、どんどんあがってきてるわけでしょ。

なんで排水設備、造らないんですか。

**管路保全課長：**

降雨はですね、緑で囲った堰排水区ですね。こちらの中で、降雨が確認されていればい

うことになります。市内ではなく、この排水区。

**質問者 9 :**

実際問題として、多摩川から水があがってきて浸水したわけでしょ。ね。だから、本当だったら、排水設備造るだったら、水門とゲートとそれから排水設備はセットで作るのがあたりまえでしょってことを言ってるんですよ。なぜ、排水設備つくんなかったんですか。はっきり言ってくださいよ。

**下水道計画課長 :**

この下水道計画作られた当時なんですけど、この宇奈根-2 ページのところなんですけど、多摩川沿いに、各いろいろな名称で排水区が書いてあるんですけど、こちらの堰排水区であるとか、その下の二子であったりとか、六ヶ村であったり、宮内であったり丸子その 1 なんですけど、そちらにつきましては、下水道計画ができたときに、自然で多摩川に流すという計画で作られてございまして、ただですね、今回、本当に多摩川、すごい上がってしまったことと、台風が来るっていう、上陸するタイミングと雨量とですね、多摩川の水位というものがございまして、結果的に被害がでてしまっているというのは事実でございまして、そこにつきましては、冒頭、申し上げましたとおり、できうる対策というものをですね、我々としては考えていかなければならないと思っていますし、具体的には、先ほどポンプのお話もでしたんで、なにかしら、早急には移動式のポンプとかそういうものを用意して、やっていきたいなとそういうふうに考えてございまして。閉めるタイミングというものもございまして、市内に降る、たとえばゲリラ豪雨であるとか集中豪雨であるとかそういうものが降っている時というのは、多摩川があがってございませぬ。今までの台風ですと、川崎市というよりは、多摩川流域全体を、雨が降っているのが多摩川に集まってきますので、その多摩川の台風がきたときの、多摩川の水位のピークとですね、雨の、実際、この市内の雨のピークがずれたりする中で、ゲートの閉鎖とかそういう対応してきたわけですが、今回、こういう事象が起きておりますので、その点につきましては、しっかり検証してですね、対策を考えていきたいと思っております。

**質問者 9 :**

そうすると、排水樋管、排水設備は造ってないということですから、住民にとっては、多摩川の水、濁流にしる、中に降った雨にしる、雨水にしる、浸水するのは、がまんしてくださいということですか。

**下水道計画課長 :**

決してそういうことではございませぬので、今回こういう台風がきてございまして、その中でですね、今度、閉めたときにどうなるかという議論がございまして、そこにつきましては、その内水の排除を、どういう風にやっていくかっていうことを、しっかり検討していきたいと考えてございまして。

**質問者 9 :**

あの、向高北かな、交差点ありますよね、あの脇に、なんかコンクリートの施設がある

んですが、あれはなんなんですか。どう見てもモーターとポンプかなという施設なんですけど。多摩沿線道路の向高入口とか北とかっていう交差点なんですけれども。

**管路保全課長：**

場所を、もう一度お願いできますか。

**質問者 9：**

多摩沿線道路。向高入口とか北とかっていう交差点なんですけれども。

**管路保全課長：**

信号があるところですか。

**質問者 9：**

そうです。

**管路保全課長：**

宇奈根-3のページの、ちょうど矢印のところ。

**質問者 9：**

そうですね。ちょうど1というところ。地図上は矢印じゃなくて1と2と、交差点のすぐそばです。

**管路保全課長：**

こちらは、多摩川の堤防の向こう、多摩川のほうにゲートと同じような構造になっているゲートがございまして、これはですね手動式のゲートになっておりまして・・・

**質問者 9：**

ゲートの話じゃないです。多摩沿線道路の内側です。

**管路保全課長：**

堤防の方にある構造と、同じようなものがですね、いまおっしゃってるところにあります。この施設の意味はですね、本ゲートが何か交換したり故障したりするとゲートの役割を失うので、このゲートが設置されているということになります。

**質問者 9：**

この設備のほうはどこにあるんですかそれは。この図面で。資料4で。

**管路保全課長：**

この資料、宇奈根-4の下段の、縦断図というところで行きますと、この図にはないんですが、一番左に多摩沿線道路とあるんですが、そのもうちょっと左側というところになります。

**質問者 9：**

もっと左。

**管路保全課長：**

もうちょっと左です。

**質問者 9：**

もっと左ですか。もうすぐそば。



**管路保全課長：**

そうです。

**質問者 9：**

それでは、全く排水の設備は設置してないということなんですね。もう一回確認なんですけれど。

**管路保全課長：**

ポンプ施設とかそういうものではないです。ゲートですね。

**質問者 9：**

はい、わかりました。それでは、そんなんで、ぜひ、本当にゲートの方の設計は、その地域に降った時間あたり 52mmですか、それに耐えられるような容量、容量というか排水口をもったゲートを造るわけですよね。ですから、当然、それに見合った排水能力を持った設備をね、造るべきだと思うんです。ぜひ、そこそこはね、本当にやってほしいと思います。それじゃないと、先ほど、私のほうから言いましたけれど、地域住民は多摩川の濁流にしる、中に降った雨水にしる、浸水してても我慢しろとっているようにしか聞こえません。そんなんで、ぜひね、ゲートの操作については、もう、多摩川の水が増水することが予想されたらゲートは閉める。で、中に降った雨水については排水設備でもって強制排水をするということをね、ぜひやっていただきたいというふうに思います。強く要望して、私の発言を終わります。よろしく願いいたします。

**質問者 10：**

我々が、今日この場に来ている理由はたぶん、大きく 2 つだと思うんですよね。まず 1 つは、再三出ていますが、再発防止の明確な答えが欲しいと、これは今日この場でなくていいので、必ず説明会をとというのはもう絶対お願いします。2 点目は、先ほどから操作ミスではないと、判断ミスではないと、いうことで責任逃れをされているようですが、われわれとしてはどうしても理解できないことがたくさんあって、それがもし人災で、天災ではなくて人災であるならば、補償をしてほしいと。私が住んでいるマンションもウン千万の被害が出てます。ここ、一戸建ての方もたくさんいらっしゃると思うんですけど、個人で多大なる、まあ、損害に関しては大小あるとは思いますが、大きい方は本当にもう死活問題になっているんじゃないかと思います。私、この被害を受けてからいろいろ補償、どんな補償してくれんのかなというので、いろんなホームページ当たったり、いろんな人に聞いたりしたんですけど、もう、ほぼない。住居的にもなくて、生き死にかかっている方に多少出るというような感じでしたので、ここに関しては、今後どういう補償をしていただけるのかな、というのは次回の説明会までにしっかり明確にしていきたいなと思います。そもそも、今回のことって、堤防が決壊していないんですね。決壊していないのに何で我々、被害受けてるのかというのが、そもそも納得できないんですよ。決壊しているなら分かります。これはもう仕方ない、天災だと思いますけど、今回は、間違いなく人

災じゃないかなと思ってます。ちょっとたくさん聞きたいことがあるんですけど、まずですね、明確に答えてほしい簡単な質問をさせていただきたいんですけど、この中で、一番、ゲート閉めるだなんだの判断にお詳しい方って誰ですか、どなたですかね。水位が上がってどうするという判断を下すにあたって、メカニズムうんぬんっておっしゃってましたけど、どなたが一番詳しいんでしょうか。

**中部下水道事務所長：**

中部下水道事務所長の藤井でございます・・・

**質問者 10：**

じゃあちょっと質問させていただきたいんですけど。

**中部下水道事務所長：**

一応ですね、私がゲートのですね、開閉の判断を、最終的な判断を、するという権限をもっている者でございます。

**質問者 10：**

先ほどから、内水氾濫を防ぐためにゲートを閉じませんでした、ってありますが、ちょっと私どうしても理解できないのが、川の水位が、我々が住んでいる所よりも低い時には水は川の方に流れますよね。それは当然そのタイミングでゲートを閉じると内側でたまってしまう。これは理解できます。でも、ある一時期から、特に私、ずっと水の動きを見てきましたけど、だいたい16時頃から逆流し始めて、バックウォーターの現象になっているんですよね。その16時以前に閉めるのはおかしいと思うんですけど、16時以降、開けっ放しにしていると、内側の内水氾濫を防げるんでしょうか。16時以降に、逆流してきているのに、開けっ放しにしていることで、何かいいことってあります。

**中部下水道事務所長：**

まず、多摩川の水位が上がって以降ということだと思うんですけども、その際ですね、実際の多摩川の水位と内水との関係等がどうなっていたかということについてはですね、申し訳ないんですけども、今現在の段階ではですね、ちょっと・・・

**質問者 10：**

いや、これはだって簡単な質問をしていると思うんですけど。

**質問者 10：**

だから、水かさはこっちの方が高いですよ、川の方が、16時の段階で。その段階で、ゲートを開けている意味って何でしたっけ。何の目的でゲートを開けっ放しにしたんですたっけ。そこ。

**中部下水道事務所長：**

先ほどご質問があったとおりに、それ以降にですね、大きな雨が降った時にですね、そのゲートを閉鎖してしまうと水の逃げ道がなくなってしまうということがあって・・・

**質問者 10：**

逃げられないじゃないですか。川の方が水かさが高いんで。私、理科そんなに得意じゃ

なかったですけど、川の水の方が、水かさ高いのに、川の方に流れていく。さっきポンプないっておっしゃいましたよね。ポンプないのに、自然に流れます。川の方に。水かさが川の方が高いのに。どうですか周りの方、室井さんどう思います。

**下水道計画課長：**

この結果から見てしまうと、確かにおっしゃる部分というのは分かるんですが、今のグラフというのは、実際終わってみて、結果的に雨もそんな降っていないという結果にはなっていないと思います。ただ、その瞬間、瞬間で50mm、80mmの雨が降るという状況になった時というのはなかなか判断するのはギリギリ難しいんじゃないかなというふうに私の方は思っております。

**質問者 10：**

すいません、ちょっと今ので、1点だけ分からない。私たちはですね、A.P7.6mというのにだまされている気がするんですけども、このA.P7.6mというのは、宇奈根の水門よりも高い水位なんですか、それとも低い水位なんですか。要は、7.6mというところにこだわっていて、例えば6m、A.Pで6mの時には宇奈根の水門よりも水位が高くなっていますということであれば、7.6mというこの基準がですね、どうなんだという話にもなっちゃうと思うんです。でも、本当に単純に、小学生でもわかるように、今お話ししたように、川の水位の方が高いのに水門が開いていれば、内水を防ぐために開けてましたというのは納得が全くできない、というか全然理にかなっていない説明だと思うんですよね。それが7.6mですって言われたときに、7.6mが水門の高さよりも高いのか低いのかというのはこの方々の中でどういうふうに考えていらっしゃるって、その事実をカウントしている方っていらっしゃるんですか。

**中部下水道事務所管理課長：**

避難判断水位A.P7.6という水位は、宇奈根排水樋管のゲートよりも低い高さになります。

**質問者 10：**

何mだったら、宇奈根のゲートよりも高くなるんですか。

**中部下水道事務所管理課長：**

これまで、宇奈根排水樋管はですね、多摩川の最高水位8m40cmの氾濫危険水位を超えるような台風が、過去にも何回かあったんですけども、その場合でも、宇奈根排水樋管は浸水が発生していませんでした。具体的に何mになったら、宇奈根排水樋管からあふれるかというのは、今は・・・

**質問者 10：**

ちょっと、すいません。その数字的なところはわかるんですけど、そうするとですね、1時間後に8.4までいってます。このグラフというのはリアルタイムで把握はできないんですか。1週間くらいしてやっとデータがくるようなものではないと思うんですけども。じゃあ8.4が水門よりも高いということであれば、今お話ししたようにですね、16時の時点でわれわれはもう逆流しているのを把握しているので、その時点でまだ何で開けているんで

すかという話になっちゃうと思うんです。確かに逆流するという事は、内水氾濫、市内の方で、町内の方で溜まった水がどう考えても流れない、逆に言ってしまうと川の水は溢れてくる。プラス $\alpha$ 、水が町の中に流れてくるということは容易に判断できると思うんですね。7.6mが、じゃあ水門よりも低いです、その時に判断しました。でも8.4mでは大丈夫だったかという、8.4mだと水門よりも高くなります。であれば、1時間後に8.4mを超えているにもかかわらず、なぜ、この活動記録を見ると23時10分の時点まで、ほっといたんですかね。そこの詳細な、この、15時から23時10分までの詳細な活動をご説明いただかないと、我々としてはちょっと納得ができません。

**中部下水道事務所管理課長：**

16時から23時10分までの活動内容につきましては、私どもの職員がですね、現地のパトロール、水位、浸水の確認と、浸水が始まっておりましたので、その状況をですね、高津区役所の危機管理担当の方に、道路冠水が始まっておりますという、そういった連絡を行っております。

**質問者10：**

それは何時？

**中部下水道事務所管理課長：**

19時22分です。

**質問者10：**

その時点で何でゲートを閉めなかったの。今、19時22分の時に危機管理センターの方に冠水が起きているというお話でしたよね、じゃあ、その時に、なぜ閉めなかったの。

**質問者10：**

これ、私が受けた説明だと、内部氾濫を防ぐために閉めなかったってしか聞いてないんですけど、内部氾濫しているのに、逆流を許し続けたのはなぜですかというのが聞きたいんですけど、これがマニュアルなんですか、本当に。あなたたちプロですよ。プロがこんな簡単なメカニズムをわからないんですかね。わかる方いないんですか、この中に。職務怠慢じゃないですか、これ。

**住民10：**

あのね、横から口を挟んで悪いけど、こんな説明会に時間を費やしても何の意味もないんじゃない。だって質問の答えが全然フィットしてないじゃないですか。

**質問者10：**

まず、ちょっとこの部分を明確にさせていただきたいんですけども、というのは我々もですね、いろいろな被害を受けている方がこの中にいらっしゃるというのに、いろいろな感情があるのは、確かにあるんですけども、ただ一番はですね。やっぱり明日にでも起こるかもしれないという、次の時にですね、どう言うのかな、まあすごい言葉を選ばずに言ってしまうと、こんな素人判断をしている人たちに水門を任せてしまっているのかというところが、すごく我々としては住民としては不安なんです。で、活動記録を見ると15

時の時点で、7.6m で判断して水門を閉めませんでした。水門よりも高くなるのが 8.4m で、グラフをみるとそれが 16 時、1 時間後の時点です。さらに、それが上がり続けています。今のお話ですと 19 時 20 何分にですか、危機管理センターの方に冠水がありましたという報告をされています。何ですけれども、ずっと水門を開けっ放しと。19 時の時点の水位というのは、この A.P でいうと何 m ですか。もう限りなく 10m に近いです。A.P 判断水位 7.6m よりもさらに 2m、3m 以上高いわけですよ。にもかかわらず水門を開けっ放しにしていた運用ってというのは、まあすごく素人判断で考えてしまうと、やっぱりこれ人災だったと思うんですよね。それをなぜ閉めようという判断を下さなかったのか、その根拠をちょっと教えていただきたいというお話をしているんですね。

**中部下水道事務所所長：**

繰返しのご説明になって申し訳ないんですけども、確かに結果としてこれだけ多摩川の水位が上がってしまったという中ですね、多摩川の水位が上がっている中でも、下水道を管理している立場といたしましてですね、内水氾濫が起こらない対応をしていくことを考慮いたしまして、その管理もですね、じゃあいったいどのくらいの雨が降るのかというのが、想定される中で、50mm から 80mm の計画雨量を超えるような雨が降ってくるような段階で・・・

**質問者 10：**

それは先ほどお聞きしたんですけれども、ここの会場にいるですね、人たちはみんな、川の水位が高いときに水門を開けていて、どうやって町内に流れ込んだ雨水が川に流れるって判断ができるんですかっていうお話をしてるんですね。内水氾濫を防ぐために水門を開けていました、それは分かります。なんですけれども、その肝心要の川の水位の方が、水門よりも高くなっているにもかかわらず、町の中に降る雨の方が今後予報たくさん降るんだって予想されるから水門開けっ放しにしとかなないと川に流れ込みませんっていうその判断ってというのは、どこから出てくるのかっていうことが分からず、いつ降るかは分からないですけど、単純な理科の実験だと思うんですよ。水位が高いところに、水位が低いところから水が流れていくんですかっていう話なんですね、それをなぜそういう判断をしたんですか、そこをお聞きしたいっていうふうに言ってるんです。15 時から、少なくとも先ほどお話しになってる 19 時 20 何分までの間での判断の話だと思うんですけども。

**中部下水道事務所所長：**

ただ今のご質問でございますが、15 時から 19 時までだということで、確かに水位はかなり上昇してしているというような状況はございますけれども、これについてもですね、実際にその時にですね、じゃあどれぐらい水位が、その時のリアルタイムの水位が分かりますけれども、それ以降ですね、内水がどれぐらいあるのかということについてはですね、そういった大雨の警報ですとか、そういったものを考慮した上で、考えなければいけないのかなっていうことを・・・

**市民 10：**

質問の答えになってないよ。

**質問者 10 :**

あの、じゃあ、教えて差し上げます。きっとですね、これ、ゲートを閉めるタイミングを、プロのみなさんは、判断間違えてるんですよ。つまり、水かさが、住んでる所超えて上がってしまったら、逆流するじゃないですか。そのタイミングで閉めるのが正解ですよ。

**市民 10 :**

今回は 9m。

**質問者 11 :**

ごめんなさい、ちょっと、初歩的なことがなかなか回答いただけないので、1つずつ紐解いていくんですけども、川の水位の方が高くなりました、その場合、逆流するんですか、しないんですか。イエス、ノーですとどちらですか。イエス、ノーで結構です。川の水位が高いです。水門が開いてます。逆流するんですか、しないんですか。

**中部下水道事務所長 :**

逆流する可能性はある。

**質問者 11 :**

可能性。

**中部下水道事務所長 :**

はい。

**質問者 11 :**

じゃあその際にもう 1 つです。あの、町内の方に溜まった雨が、その時にもう先ほどから、説明ですと川に流すために水門を開けていました、というご説明なんですが、そういった逆流する可能性がある時に水門を開けておくことで町内に降った雨が流れるというふうな考えなんでしょうか。

**中部下水道事務所長 :**

実際、多摩川の水位とですね、内水、あるいはその管内、管内水位等のバランス等々についてはですね、正直、どういったかたちで、水が、行き来するのかっていうのは、ちょっと検証してみないとわかんないのかなっていう・・・

**質問者 11 :**

検証しないとして。

**市民 11 :**

検証しないで開けっ放しの判断を下しているんですか。検証しますよね、普通。開けっ放しにする判断を下す前に。そのマニュアル作る前に、検証したからそのマニュアルがあったんでしょ。

**中部下水道事務所長 :**

その多摩川の水位と、内水の降雨のですね、雨の降り方ですとか、多摩川の水位の上昇

の仕方のケースというのは、いろんなケースが考えられると思うんですけども、そのケースを1つ1つ・・・

**質問者 1 1 :**

いや、今回の話を、お話ししてもらえます。さきほどからいろんなケースが考えられるって言った2007年の台風9号もそうですし、2017年の台風24号も、かなりの水位まで上がりましたよね。

**市民 1 1 :**

すいません。この地域に100mmの雨が降って、もし水が溜まったら何cm上がるんですか。

**市民 1 1 :**

狭い地域よりも、多摩川に流す規模の方がぜんぜん大きいわけでしょ。

**市民 1 1 :**

この地域に100mm降ったら何cm水が上がる。排水しなかった場合。

**中部下水道事務所所長 :**

申し訳ございませんが、ちょっとそういう計算の方はしてございません。

**市民 1 1 :**

おかしいじゃん、それじゃあ。

**質問者 1 1 :**

そしたら水門を開けておくっていう意味が分からないですよ。どういう判断基準で開けといたのかっていうのが、全然説明になってないですけど。ご自身でそれは、説明になってないっていうのは、理解できてないんですか。あの、すいません、えーっと、先ほど藤井さんが、ゲートを開ける責任者だっていうふうに、判断する責任者だっていうふうに、お話しをされてらっしゃったと思うんですけど、もう変えていただくしかないです。ここの住民の方のほうが、よっぽど理解できていると思うので、この方にこの立場をお任せするというのは、ちょっと我々住民からするとすごく不安ではないかな。そういうふうに、言わざるを得ない状況だと思います。抜本的に、対策をしてくださいということであれば、まず藤井さんを変えてくださいとしか言いようがないんですけども。そこが、説明ができないですし、どう考えても多摩川の水位の方が高いのに、内水が、流れ出てくる先がなくなってしまうからっていうのは、どう考えても理解ができないことだとは思いませんか。その判断をされてらっしゃる、我々の財産を、これだけ被害を出してしまったっていう、この立場としての責任感というところが、あまりにも薄いんじゃないですかね。

**市民 1 1 :**

すいません、ちょっと質問をさせてよ。申し訳ないけど。

**質問者 1 2 :**

同じのがあるんだけど、今度、切り口を変えるから。長らく、やりとりを聞いていて、まあ、質問する側も切羽詰っていて、困っているから一生懸命聞いているんだけど、答え

る側が、まともに誠意があるような対応になってない。で、10月の23日の、福田市長が記者会見したときに、こういう水害が起きるんで、どうしたらいいのかわかなくて分からない。だけど、上下水道局は、マニュアルに沿って、しっかりやったと言っている、というように日本経済新聞に書いてある。で、マニュアルに書いたとおりにしっかりやっているという内容なら、数値でこうなったから、ここで判断して、こうしましたっていうふうに答弁すれば、だれしもこんなグズグズ話したりすることはない。それが、判断する基準をだれも示さないで、じゃあ危ねえだとか雨がたくさん降るんだとかっていう仮説ばかりで話していて、水害になっているのは事実だよ。それに対してなんであなたがたはそんなことに拘って話しをしているの。そこがまったく理解できない。マニュアルがあるんだしたら、マニュアル提示して出せばいいじゃない。で、新聞記者の会見に3.49m水位が上がったら堤防を閉めるという手順があるんだけど、これは山王地域ですけれどね、雨がひどくて、閉めなかった。そういう数字がある。じゃあ宇奈根の樋管にはそういう数字はない。おかしい。それから、もう1つ、宇奈根の樋管、排水樋管が1つ問題になってるけど、もうちょっと上側に、入樋管というのがある、堰の。あそこの堤防、開いたんだか、開いてないんだか、よく分からない。あそこも、水は排水してるはずですよ。で、そういう、いろんなことを、もっときちっと調整して、今回時間をかけて、この場を作ったんだしたらね、答弁できるようにしてほしい。それからね、致命的なのがね、国交省のね、京浜地方整備局の大田副所長が、きちっと答弁しているんだよ、この問題に対して。多摩川の水が逆流したら、ゲートは閉めるのは基本だと言っているんだよ、国が。その国が言っていることを、あなた方が、雨が降るだなんだかんだ言ってるんだしたら、国がいったとおりにして、国の責任にすればいいじゃないか。国が言っていることを守らないのなら、なおさら我々、見捨てられるんだよ。市にも見捨てられて国にも見捨てられて、どこにもはげ口がないじゃないか。何でもっときちっと問題をクリアに把握しないの。こんなことやってたらね、これから先、あんた方が改善策を立てるって言ったって、まったくピントの外れた改善策になっちゃうよ。だって真実を語らないんだもん。自分たちの保身ばかり説明してて、それで何で対策が立てられるの。国が言ってることと、あなた方がやってる行動との、差異について説明してくださいよ。それからマニュアルがあるんだしたら、マニュアルを、ちゃんと口頭じゃなくて、こうゆうのあります、で、ここにはこう書いてあるけどあんたたちが、自分たちで勝手にその場で雨が降る、お天気模様を見ながらゲート閉めるか閉めないか判断しているって、そうしろって書いてあるんなら、それを見せてくださいよ。そしたら何も文句言えないね、我々も。もう、水がさ、流れる流れないだのそんな答弁は、誰が言っても分かるじゃん。で、もしそれがね、いまだにあなた方も、そう思ってて、こっちもそう思っているだったら、第三者機関を立てて、しっかりどっちが言っていることが正しいかさ、白黒つけるべきだよ。こんな低次元の議論してるんだしたら。もっと前を向いてさ、対策立てなきゃ。それには、今起きた原因をはっきり、市が悪いだったら悪いんでさ、しょうがないじゃん。ポンプ車が無いんだしたら、無いですって。何



回も予算陳情したんですけどもらえなかったんですと。福田市長の責任ですって言えばいいじゃないか。もっとちゃんとやれよ、時間が限られて、短いんだからさ、内容の有る、質問に疑義応答してくださいよ。とにかくマニュアルはつきりしてください。

**事業管理者：**

ご指摘、ごもっともだと思います。我々この場ですすね、判断誤っていましたが申し上げることはできませんけれども、場合によってはその可能性もあると思いますし。ただ、先ほどから申し上げているのは、もしですすね、町側に大量の雨が降った場合には、外水と内水の押し合いということになりますので、その場合、中に一杯雨が降って内水が強くなって出るということもあるわけで、我々としては、それを内水の氾濫を防止することもあるのではないかと、大雨に備えているものでございますので、もう現実にですすね、これだけの被害が出ているのも事実でありますし、おっしゃるとおり多摩川の水位が上がった段階で、逆流が確認できた段階で閉めるべきだったのではないかと、というお話についてもですすね、しっかりと受け止めさせていただきたいと思っております。申し訳ありませんでした。これについても、二度とですすね、このようなことを繰り返さないよう、しっかりと検証して、その取り扱いにつきましても見直してまいりたいと思っております。申し訳ございませんでした。

**質問者 13：**

すみません、検証とおっしゃるんですけれども、いいですか。どなたが検証されるのでしょうか。上下水道局の方が検証されているのですか。第 3 者の方が検証して下さるのでしょうか。そこがとても気になります。

**管路保全課長：**

今、色々なご意見をいただいております。今回の水位は、多摩川が一番高いところまで上がっています。こういった事象にですすね、まずは上下水道局でまとめてですすね、必要に応じて、第 3 者のご意見を聞きながら検証して報告したいと考えています。

**質問者 14：**

わかりました。すみません、色々ご意見をおっしゃいますが、ひとつ紹介したいのが、10月16日の東京新聞で、公益財団法人リバーフロント研究所の土屋技術参与さんが、川の水位が高いのにゲートを開けていけば、逆流は当然で、ありえない判断だったという専門家の方の意見もございましたので、ぜひ第 3 者の方に検証をお願いしたいと思います。以上です。

**質問者 15：**

非常に親しい人間がですすね、東京都狛江市にあります。彼らとですすね、狛江市はどうなっているとは話しているんですが、今日こういう場所を作ってくれたという、その川崎

市ですね、方々のがんばり、熱意を、こういうことになるって分かっているわけですね、要するに炎上するってのは、簡単にいって。でも、やろうということを決めてやれたっていうのはですね、狛江市ではまったくやってません。だからそういう意味でこの場を作ってくださったご尽力に、とにかく感謝します。もうひとつなんですけど、多分これ危機管理センター、室ってありますよね、政令指定都市、川崎市そうですから。そういう意味では今日いらっしゃる大畑様の下にですね、あるんですよ危機管理センターてのが。水だけでなく地震もそうですけどね。だから、結局、外の世界とやり取りしなければならないですね、例えば国交省と。それはやっぱり下水道局ではなくてですね、大畑様の責任範囲にあるのではないかと勝手に推察しています。

**上下水道事業管理者：**

すみません、大畑はですね、上下水道局の総務部長です。

**質問者 15：**

失礼致しました。総務部長とかいてあったので。あとひとつですね、肝心なことですけど、皆さんの話にまったく出てこないんですけどもね、この宇奈根のページ 5 を見ていただきますとですね、非常にはっきりしたことが分かるんですよ。要するにね、我々のところに雨が降った時間、降水量が出てますね、棒グラフ。それと多摩川の水位の時間経過がですね、非常にずれているんです。これなぜかと言いますとですね、全部とは言わないけれど、非常に大きな理由が小河内ダムの放水なんです。小河内ダムはですね、12 日のある時間、6 時からですね、毎秒 600m<sup>3</sup>の水を出しているんです、毎秒ですよ。毎秒 600m<sup>3</sup>というんですね、50m×90m の、要するにオリンピックプールの水位が 1 秒間で 1m 上がるわけ。小学校にある 25m プールですとね、1 秒間に 4m、プールの水位があがる、それだけの水がですね、小河内から出てるんですよ。小河内はその前はですね、毎秒 20m<sup>3</sup>だった。それが、東京都水道局の管理なんですね。だから、水道がいつも、渴水するといけないから、ギリギリまで水溜め込んでいるの。台風来たって溜め込んでいるわけですよ。城山ダムと同じように堤防越えちゃったら大変ですから。突然ね、自分勝手に出すわけですよ毎秒 600m<sup>3</sup>も。だから、それが上から流れ下って水位が雨の降り方と遅れて上がっているじゃないですか。それが全部とは言いませんがね、相当の部分が小河内の放水ですよ。これは川崎市じゃないんですね。東京都水道局です。だから、申し訳ない、これが河川の水位上昇とですね、雨の降り方を時間軸で並べれば、率直に分かるんですよ。全く誰もそんなこと指摘しないから、私いいましたけど。と言うことは、だから、ほんとに、市を超えて県を越えて、東京都とやらなきやいけないかもしれないですね。要するに、ダム管理どうすんのと。もっと早くですね、小河内が、放水始めてくれていればね、もっとゆっくりでよかったんですね、放水量が。ギリギリまで耐えて、さあ大変、さあとどんっと出しちゃったから、こういうことになってるわけ。で、だから、そういう意味でですね、縦割り行政っていうのが大きな原因ね。それを、超えるようなご尽力を、ぜひぜひ、していただければいいんじゃないかと思えます。これは基本ですよ、ひとつのね、と思えます。

**質問 16 :**

さっきさ、質問一つしてあるんだけど、入樋管。堰の入樋管の水門はどうなっていたの。場所わかんない。

**管路保全課長 :**

上下水道局でですね、管理している樋管がですね、お手元、宇奈根-2 と書いてある資料で、赤丸のところは宇奈根排水管があると思いますが、その下流側は二子排水樋管になりまして、宇奈根排水樋管の上流側は宿河原排水区が一番奥の右上のところ、ギリギリのところにあります、宿河原排水樋管となっております。今のは・・・

**質問者 16 :**

宇奈根と山王、多摩沿線道路の向高の北側にある道路のところに、多摩川に出ている水門があります。多分それだと思うんですけど、書いてないからね。

**管路保全課長 :**

こちら、上下水道局で所管をしておりますので、そこのゲートの開閉につきましては・・・

**質問者 16 :**

資料の中で、管理は川崎市って書いてあるよ。入樋管、道路の横に、多摩川の土手歩いていけばわかるんだけど、あそこに、下にあるよ。

**管路保全課長 :**

繰り返しにはなりますが、上下水道局で管理をしておりますので、うちの方で調査を致しまして、そこにゲート、どうなっているのか確認を取りたいと思います。

**(当日回答できなかった事項に対する回答)**

宇奈根排水樋管の上流でございます、堰入樋管は多摩区役所道路公園センター所管のゲートでございます。この樋管のゲートが、10月12日から13日にかけて開いていたのか閉まっていたのかにつきましては、現在(11月27日)、多摩区役所道路公園センターで調査中です。

今後につきましては、この堰入樋管が台風第19号により発生した浸水に影響を与えていたかについて、多摩区役所道路公園センターと連携して検証し、令和2年3月末を目途に実施する排水樋管周辺地域の浸水に関する検証の結果と併せ、公表してまいりたいと考えております。

**質問者 16 :**

市が答えてないのがあるんで、宇奈根のゲートの保守管理は、その頻度は、どんぐらいでやってるの。

**中部下水管理課長 :**

宇奈根排水樋管の維持管理、保守管理につきましては、3月11日にゲートの専門業者に

よる点検を1回行っております。その後はですね、5月22日に国交省の検査を受けております。その後は、6月26日、7月30日、9月17日、最後が10月10日、台風前に点検を行っております。

**質問者16：**

先ほど、ゲートの内側にある、堰というか、水門があるよとの話でしたが、そこんところはやっていないんですか。

**中部下水管理課長：**

補助ゲートにつきましては、3月11日に一緒にやっています。

**質問者16：**

だけ。それだけ。それで草がいっぱい絡まっているんですね。

**質問者17：**

先ほど金子さんでしたっけ、お詫びの言葉を頂いたので、否を認めて下さったと、私は理解したんですけど、ということで、今までの繰り返しになる部分もある思うんですけど、宇奈根-5の資料を見て頂くと、この中で報告されている内容、15時の次に23時10分。この間に一体何をされていたかということが全く分からない。で、グラフを見ると、水位が上がっている、雨量がだんだん収まってきているように見えるわけですが、この状況が、先ほど水位はリアルタイムで観測しているとおっしゃっていた。で、15時以降に、実際に、逆流しているのも観測されている。だけど水門は閉めてない。だから、この間にいったい、誰がどういう判断をしたのかって、その辺は、分からない。事細かにですね、報告して欲しいんですよ。先ほど、マニュアルがどうなっているのかってご指摘がありましたけども、私もそこはすごく気になります。マニュアルに沿ってやっているって、言い張るのであれば、実際に被害が起きているのは、マニュアルが間違っている。マニュアルを作ったのは人ですから、それは人災ですよ。マニュアルに不備があったんじゃないですか。マニュアルに沿ってやったって、言ったって何の言い訳にもならない。それに、状況は刻一刻として変化しているわけですよ。13時に決定しました。その後、何もしないんだったら、それこそ怠慢ですよ。ぜひ、15時以降、23時10分までの間に、どういう動きをしたのか、どういう判断をしたのか、事細かに報告して下さい。以上です。

**中部下水道事務所管理課長：**

15時以降の、現場のパトロールの内容についてご説明いたします。18時にですね、職員が現地に向かいまして、現地で、道路冠水の状況を確認し、先ほどご説明致しました19時22分に区役所の危機管理担当に道路冠水が発生しましたという状況を報告しています。その後、22時に別の班が、パトロールに現地に向かいまして、その後23時10分ですね、雨が止みまして、雨が止んだことから多摩川の水位がだんだん下がって、その状況でゲートを閉めないで開けておりました。その後ですね、13日の2時に職員が道路冠水をしているので、交通規制をして、現地におりました。その後、継続してですね、3時、5時と車の進

入がないように、道路冠水をしているので、立ち入らないで下さいと、そういう対応をしております。その後、13日の明け方4時、だんだん多摩川の水位が下降傾向に伴って、道路冠水が減少してきているということを現地で交通規制をしながら確認しています。

**市民17：**

すいません。今のご説明で18時と19時、22時とあるんですけど、その時の判断がどうしたのかって、全然なかったんですけど・・・

**中部下水道事務所長：**

その間の判断につきましてはですね、多摩川の水位上昇が22時30分でAP+10.81ということで、最高水位を記録しております、それと近い動きをする形で、まだ内水があったと、区域内に雨が降っていたということがございますので、この間の判断と致しましては、先ほども何回もご指摘頂いているんですけど、まだ大雨の懸念があるということでゲートは閉鎖しないと判断をしている状況でございました。

**市民17：**

すみません、今のことで。閉めるタイミングっていうのはマニュアルにはどう書かれているんですか。今回の状況で、そういう事象は起きてないんですか。

**管路保全課長：**

閉める判断といたしましては、宇奈根-5ページに記載させていただいておりますが、降雨ある場合、大雨警報が発令されている等の場合は、宇奈根の排水樋管ゲートは開けておくという判断をしております。それが前提にありまして水位7.6m、田園調布(上)水位観測所の水位7.6mのときにおいてですね、経験から7.6mとなっておりますが、周辺状況を踏まえて現場開閉方針を判断すると・・・

**市民17：**

マニュアル、間違ってますよ。マニュアル間違ってるから・・・

**管路保全課長：**

総合的判断というのがですね、先ほどからありますが、気象ですね、川崎市の、雨量計が設置されているところで、雨量は確認しております。あとですね、台風の進路予想、これは気象庁の予報になりますが、台風の進路予測、今どこにいるのかということと、あと同じ気象庁の発表ですが、降雨ですね、降雨に関する予測ということで、先ほどからですね、藤井のほうから話がありますが、15時の段階では、11時59分に発表がありまして12日の昼からですね夜にかけて50mm、局所的には80mmと、強い雨が降る見込みがあるということと、あと17時48分同じようにですね、12日夜遅くまで50mmの強い雨が降る、局所的には80mmの大雨が降ると、可能性があるということと、こういったですね気象条件も判断をしていたところでございます。

**市民17：**

提案なんですけどね、もう9時までって言ってましたよね。今日の説明会は。そろそろラップアップをしませんか。今日、これ以上、質問しても、まともな答えがでてきそうも

ないので、何をいつまでに誰がやるかということを決めて、最初、堰対象の説明会をもう一度やっていただけるという話でしたよね。

**司会：**

あの、町内会で調整をしてやるかどうかは判断するという形で聞いております。

**市民17：**

その話は、もう一度やるという話は伺ってますか。この場で皆さんもう一度これはやっていただかなきゃいけないと思うんですが、どうですか皆さん。

**市民17：**

あの、このままではあと何分ですか、7分ぐらいで時間切れで終わりました。で、説明会をしましたということで、終わってしまうと思うんですよ。たくさん、あの皆さんからの、今日質問したいこともあるかと思うんですが、とりあえず、今日出たことを、議事録に残すということをごここで一番責任のある方、どなた、どなたになりますか、金子さんですか。金子さんの口から、議事録に残します、ということ。その議事録には、アクションアイテムと、担当、で、いつまでにということをお約束いただきたい。それから、いくつかでてましたけども数値データに基づいた説明が全然されていないので、それは降水量と、どのぐらいの、ゲート閉めた場合内水が上がるかなんて、誰でも計算できるはずですね。これは、あのそれなりのデータ、表面雨量、表面雨量指数基準というのをお持ちのはずですから。皆さんは、ちゃんとその計算ができるはず。それをやっていただきたい。それから、マニュアルを見せていただきたい。それから、10月12日の午後ですね、昼ぐらいから次の13日の昼ぐらいまでどうということを細かに、パトロールしたとか、誰が見に行つて、誰の判断で、どうことをしたかということを開示していただきたい。ですね。あの、わたしがメモしたのはそのぐらいのところです。他に、あの質問を受けた立場でアクションアイテムとして盛り込んでいくことがあれば、盛り込んで議事録を作つていただきたい。でそれを基に、次回の説明会、皆さん説明会に参加していただいて、この話の続きをするというのがいいんじゃないかと思ひます。提案です。いかがでしょうか。

**(当日回答できなかつた事項に対する回答)**

ゲート操作の判断に関しましては、令和2年3月末を目途に検証を進め、数値データで示すなど、分かりやすく取りまとめ、結果を公表してまいります。

排水樋管ゲートの操作手順につきましては、議事録と併せて公表いたします。

12日から13日にかけての活動といたしましては、12日の9:05、14:05、18:00に現場パトロールを実施したほか、22:00以降は宇奈根排水樋管周辺地域において浸水が解消する13日6:00頃まで浸水範囲の確認や浸水区域の交通誘導などを実施しております。なお、12日18:00の現場パトロール時には、宇奈根排水樋管周辺地域で道路冠水を確認したため、19:22に区役所の危機管理担当へ道路冠水の発生を報告しております。さらに、13日11:00頃からは、マンホールの補修や、下水管きょ内の土砂堆積状況の確認などを実施したところでございます。

**市民 17 :**

それとね、あの次回今日は宇奈根の地区と久地の地区なんで、堰の 1 丁目 2 丁目の被害にあわれた方が対象にまだ説明会が設定がされてないんで、それは町会長がなんらかの判断をしてやるようになると思いますけど、そのときに同じ場所で、同じような議論をまた丁々発止するのはもったいないから、議事録を配布資料の中に入れていただいて、前回読み上げてやった内容の中で、この時に出た質問はしない、なるだけ効率のいい説明と質問を展開したいので、次やるまでには議事録とアクションアイテムをきちっと決めて、配布して、それで説明会の中で、同じような質問を二度三度起きないように配布して、効率的に説明会を進めたいと思うので、ぜひそこは意識して、意見の申し渡しをしたいと思います。

**下水道部長 :**

ただいまお伺いしました意見につきましてですが、議事録につきましては先ほど申しましたとおり、一週間以内には作成しますので、それにつきましてはホームページで公開いたします。堰 1、2 丁目の合同の説明会でございますが、こちらにつきましては先ほど申しましたとおり、町会長のほうと今調整してございますが、おそらく開催されると我々も思っておりますので、そのときには資料の一部として議事録をつけて開催したいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

**市民 17 :**

よろしく願いします。

**市民 17 :**

説明会は開かれない可能性があるという話ですか。

**下水道部長 :**

役員会のほうで、一度ご説明にあがります。役員会のほうでそれを聞いて、住民の方にこういうことがあったけど、住民説明会を開くかどうかということを決めると言われましたので、それのご回答を待ってから日程の調整をしたいと思っております。

**市民 17 :**

いや、今日出てきてる方が必要だと考えたらやるべきなんじゃないですか。

**下水道部長 :**

はい、町会のほうでそれも含めて、我々から今後お話をさせていただきますので・・・

**市民 17 :**

じゃあ、今日来ていない、町会長も見えていない役員の意見に判断、左右されるようなものなんですか説明会は。

**下水道部長 :**

町会を通してということで、今やっていますので、町会長さんのほうに話を通していただいて、そこで決めて、我々のほうからもやるような話でお話をしたいと思っておりますのでよ

ろしくお願いします。

**市民 17 :**

ぜひやってください。

**下水道部長 :**

はい。

**司会 :**

それでは、すみません、そろそろ時間もおしてきました。もう 9 時になるかと思います。総括的な事項を鈴木下水道部長のほうからお話させていただきます。

**下水道部長 :**

本日は、説明会に出席いただきまして誠にありがとうございました。冒頭にも、お話しさせていただきましたけれども、我々としては、この事象に対して、大変重く止めているところでございます。今日は、皆様にいたるところで、このゲート操作につきましてですね、逆流してんのになんで閉めねえんだ、こんなの誰でもわかるじゃねえか、という厳しいご意見いただいております。その辺につきましては、ごもつともだと思っております。これをしっかりと受け止めて、今後、検討等々進めていきたいと思っております。このゲート操作につきましては、先ほどもお話ししましたとおり、マニュアル等々に沿って、やってきたというところでございますけれども、結果として、多大な浸水被害を起こしてしまった、ということにつきましては、現実でございますので、その原因につきましては、しっかりと我々、検証した上で、今後同じことを繰り返すことのないように、しっかりと検討を進めまして 3 月末を目途に、一定の方向性を出します。その後、雨季がありますのでここに向けては、ゲート操作の見直し、それから、ポンプ施設等々の設置を含めて、進めてまいりたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。本日はお忙しい中ありがとうございました。

**市民 :**

最後の一言だけです。今日、ここにご来席しての方々の対応は、ちょっと不満を感じましたが、窓口でとか、現場に出てやってる方は、ほんとによくやっています。我々被害を受けた側から見て、ほんとに助かってますんで、それは本当にお礼申し上げます。ありがとうございました。それと今日、参加していただいたメンバーの中に市議会議員の方おられます。あの、市議会議員の方は、こういう内容を、市議会の中で、きちっと我々の気持ちを代弁して、伝えていただきたいと思います。あと、その他に何人か、市議会の方おられると思いますけど、こういうところに来て、我々住民の意見を聞いて、市議会にかける意欲のない、市議会議員に対しては次の選挙でよく考えてもらいたいと思います。

**司会 :**

それでは、これをもちまして本日の説明会を終わります。本日は誠にありがとうございました。